GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1.早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	電気自動車等
b.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	次世代型太陽電池の開発

2.具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	電気自動車等
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	バス事業において、ディーゼルバスからEVバス等の環境対応車への転換を推進する。あわせて、社用車についても更新時にEV等の環境対応車の導入を進め、電動モビリティの社会実装拡大に貢献する。

b.	次世代型太陽電池の開発
対象行動	最終製品・サービスの購入・販売
概要	ペロブスカイト太陽電池をはじめとする次世代型太陽電池の導入検討および活用を推進し、再生可能エネルギーの普及拡大と社会のGXに貢献する。

3.サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4.温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	電気自動車等
削減対象	Scope 1＋2
目標年度	2030年度
基準年度	2013年度
目標削減率	50%
削減目標における選択対象の位置づけ	EVバスの導入はScope1（目標はScope2との合計値）における排出削減（2030年度目標）に直接的に寄与します。

b.	次世代型太陽電池の開発
削減対象	Scope 1＋2
目標年度	2030年度
基準年度	2013年度
目標削減率	50%
削減目標における選択対象の位置づけ	太陽電池の導入はScope2（目標はScope1との合計値）における排出削減（2030年度目標）に直接的に寄与します。

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	電気自動車等
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

b.	次世代型太陽電池の開発
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	子会社

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

2026/10/21

小田急電鉄株式会社

取締役常務執行役員　経営企画本部長　水吉　英雄